

あ、今日は4月21日。あの熊本地震から1週間がたちました。4月14日21時26分にマグニチュード6.5の地震が発生したのを私はテレビの速報で知りまし

人の温かさを知る 大橋 美紀

は本震ではなく、その後の16日の午前1時25分のマグニチュード7の地震だったと報道。14日より、すでに1000回以上揺れている。そして65名の方がこの地震関連でなく

載せて頂き、不足している紙おむつや粉ミルク、水、その日からエールの電話、すぐに来店してください。さり物資を持ってきてくださったり、ご近所の方が何かの足

被災されている方の声や状況を毎日伝えて頂き、刻々変わる今、足りないものも聞いている、大垣の皆さんにお伝えしています。本当にこんな

活が出来るように備蓄すること、ラジオを懐中電灯、必要なものを準備すること、せめて寝ている部屋



第151号 発行 編集 風地蔵 白石 美帆 〒503-0922 岐阜県大垣市馬場町85 ご感想・エッセイ・俳句・おちま

あまでうす

最近、長年眠っていた万年筆を復活させて使い始めた。今までメモを取る時に使っていたボールペ

この時代になると、各チェーン店での売り上げが序々に落ち込んでいた時代でもあった。勤めていた

この万年筆を使う切っ掛けとなったのは、今年初め頃に、コンサートでいつも

二十分。ありました。ありました。ありました。と木製のケースに入

スに名前が入っている。とゆう事は、「シチズン・エクシードの万年筆は、ペリ

熊本地震 支援の御礼申し上げます。この度は、私のふるさと、熊本地震に多大なご協力ありがとうございました。地震の翌日、岐阜新聞の記者さんが駆けつけてくださり、翌朝には大きく取り上げられていました。おかげで、一番に駆けつけてくださった庭師奥田さんを始め、エステのお客様、風地蔵のお客様、SNSのお友達、

また、岐阜新聞を見て、たくさんの方に義援金、物資、協力をいただきありがとうございます。すべて、ノートに書き留め、収支報告書もあげております。店長を始め、スタッフにも仕事以外のことなのに大きな力を出してもらってありがたく思っています。なるべく、事細かにブログでも記事にしておりませんが、その中のひとつを「川風」に掲載させていただきます。一番被害のひどかった「益城町」を中心に支援物資を

届き次第、時には毎日福岡から運んでいます。きのうもまだ、全壊と貼られた赤紙の崩れてきたような家の前にテントのようなものを張り、おむつ使用の高齢者二人がむき出しのベッドに野

外で寝ておられました。寄せられた思いを、手渡しで、必要な方に届けています。友人も親戚も、恐くて眠れない日々を過ごしています。地震がさつきもおき、支援活動は長期戦だと思っています。風地蔵の取引先の九州の各工場の被害は少なくおかげさまで、動き出して

おります。たくさんの方に気持ちを寄せていただいていること、私たちが動かす原動力です。今後も風地蔵共々、熊本、九州をよろしく願っています。白石 美帆

# 川風

しらいしみほ

物資が全国から来す

あまたたけん、中断したて、名古屋の中日新聞に今朝載ったと、風地蔵のスタッフから報告。実際物資が一番集まった被害のひどかった『益城』

その益城から今朝、若いお母さんが物資不足の呼びかけSNSでしよらした。なんて思う？なにがいて書いてこれだけを太宰府から買って届けたと。帰りに、なんかもやする。この気持。

あまりにも、おかしい！と思つて、帰りの玉名Sから益城の対策本部に電話した。全国からの行政からの支援は、行政へ送られ、指定の避難所

だけの避難所だけでは足りず、場所を開放してくださっているところも山ほどある。また、小さい子連れの家族は、神経に障り怒鳴られたり、居場所がなくなり、車中泊、恐くても家に戻り、夜は庭か車で寝ている。そんな人へは物資が届かない。この若いお母さんは、そんな人の代表だ。

行政も人手不足で把握できないのはわかるし、運んで欲しいとも言わん。もし、その方に車がないとか避難所に行けない理由があるのなら、私が代わりに行きたい。その場合、

ある？石鹼1個、トイレットペーパー1つ、ティッシュ1つ、ポリ袋、ゴム手袋3つ、サラシ1つ、砂糖1つ。遅れて翌日って連絡あつたけん、

泣きそうになった。この日、大垣からの物資が届く予定が、あつたけん、

それくらいのことでも電話に出た人が現断できないのが現状だ。しばらくして避難所にいなくても近くの避難所の物資をとりくればあげると、ようやく返事があつた。

親戚のいる避難所では体育館にいなければ地域の人でももらえないと聞いたんです。ほんとうに取すか、ほんとうに取すか？と念を押した。たつたこれだけを、太宰府から持つてこられたんですか？と驚かれた。どうしてその方は自分で来られるんですか？と聞く。そんなこと聞かせ

聞かせませんと言った。たつたこれだけでもいま、必要なのに、買いにも、もらいに行けないなんらか

の理由があるんでしょから、また要請があれば運びますと言つた。そこは益城の一番ひどい箇所から高台にある古い家の中の新しい家だった。入り口の擁壁は、ごっそり崩れ、上の家の物置やら、土砂ととも道まで崩れ落ち、家も傾いている。その崩れた赤い紙の家の前にベッドを出して大人用紙おむつや、生活用品を並べて青空の部屋に要介護老人が二人ベッドに腰を下ろしてる。

そんな光景が、ずっと続く。全壊は赤い紙、半壊は黄色の紙、大丈夫な家は検査済みの緑の紙が貼られている中の、数少ない、緑の紙の家だった。小さな子どもたちは飛び跳ねて喜び、お母さんは

恐縮しながら、細い声で話してくれた。家の中に入れたけど、リビングだけ、やっ

と片付けただけだと、すっかり疲れきっていた。水もでない、何度も何度も給水もらい、運ぶと。大きなポリタンク、きのう積んでたのに！

また、要るものあれば言つて下さいと伝えると、いいんですかと救われた顔をされた。太宰府から来たと知つてるあたしを頼られるのだ。

だあとに、足りないものを聞いて、またそのお母さんのお宅へ行つた。地震の日は、目の前の公園に避難したらしい。避難所に入っていないと。

ご近所づきあいもないのだから。地震から先の行動に思いを馳せる。そして、近くの避難所にある物資を取りにいけるんですよと教えて、いっぱい話を聞こうと思つたのに、

実際に、その場でそんな話は出来なかった。帰りに、お礼の長文が届く。すこし、若いひとの背中が押せたなら。

そう思つて向かったのに、言葉が出てこない。お礼の返事をかいた。その中に情報も書き込んだ。そのお母さんもまた、面と向かつては言えない言葉があふれんばかりに書いてあつた。

SNSがあつたから、こんな人の声も拾えたけれど、やはり私たちは、少し勇気を出して、おとなりさんと、会話をしよう。ひとりぼっちじゃ決してないのだから。少し勇気を出して。

ちよつと立ち話

原さんのまちゼミい  
いですよね  
(揖斐川町の細野さん)

ピカソ展行ってきたの！今回、いいことが書いてあるなと思つて。(ご近所の奥様)

オーナーは大丈夫だったの。気になって。大変だったよね。(エステのMさん)

僕の実家の犬も1月21日に死んだと連絡があったよ。やっぱり両親2ヶ月くら

い落ち込んでいた。シーズで16年いたよ。

(奈良出身のお客様)

ペットは家族です。本心に寂しい思いをされたことと思いません。私も今、犬を2匹飼っていますので大切さは良くわかります。ふつと思いい出すこともこれから何回もあるかと。

そのたびにこみ上げの感情も涙もロン君にとつては幸せであるかと思えます。この震災で被災された方、どうかお体だけは気をつけて国民の皆様が温かい気持ちでたくさん届けて頂

けると思います。

(大橋)

家で犬を飼ったことはないですが、長年一緒にいた家族が、突然いなくなることは寂しいより、いなくなつたことを受け入れる気持ちになれないことの方がつらいんだと思います。店長が一番、散歩したりえさをあげていたので誰よりも強いと思います。

ツクシは取るだけとつて、楽しんでいましたね。親が好きじゃないので。映画祭とか、まずこのあたりではやらないので縁遠いですね。

見たい映画があるの  
でその映画を見に行くことにします。

1度奥田さんの家にお宅訪問したいですね。どの季節に行っても楽しめそうです。

(原)

そういえばつくし最近とりませんね。子どもが小さいときはよく一緒につんで袴をとって茹でて卵とじにしています。

菊池映画祭いいですね。こっちでもないでしょう。あれば行きたいと思えます。まちゼミ、なかなか難しい話ですね。

奥田さんすぐに駆けつけてくださりあり

がとうございました。あまでうすさんもすぐの電話ありがとうございました。熊本の方たちが一日でも早く、心からの笑顔になれますように、少しでもお役に立つように物資集めていきますね。

(鎌澤)

熊本地震

四月十四日、夜テレビを見ていると、速報が流れ、番組が熊本の映像に切り替わり、一瞬何が起ったのか近いが出来ませんでした。そのうちに福岡も震度6強とテロップで流れ、即社長は大丈夫かと体が反応して、メールで安否確認をしました。返事が戻ってくるのに少し間が開いて、その間テレビを食い入るよう

に見つめていました。まるでそこに社長が映るんではないかというような錯覚を覚えました。そのうちに、坂口芳枝さんや、リーちゃん、田中春江さん、皆さんの顔が浮かびました。そうこうしているうちに社長から、「揺れたよ！りおんが泣きながら電話してくるけん、その間、保育園の時のやす君のお母さんからも電話の着信が何回も入って、無風さんから電話ももらった。」「芳枝さんや黒川は大丈夫ですか？と聞いて、調べてもらって、黒川は大丈夫らしい。ちよつと一安心です。十五日の朝、いつものように、社長と電話でやりとりをしま

したが、そのときに、「一晩中、揺れ続けて寝れなかった。」と、経験をしてない私は、想像するしかないのが申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。そんな中、翌日休みのリーちゃんと、筑後方面に用事もあるので、久留米餅の織り元が作るストールを仕入れに行ってくださいました。そしてその晩、十六日午前一時二十分頃、また大きな地震があり、こちらが本震だったようで、十四日には大きな被害がなかったところにも打撃を受け、被害が拡大していくのをニュースで観て、朝社長と電話でやりとりをしながら、何か出来ることはないだろうか、ないだろうかと、考えあぐねていました。

十七日の朝、社長と電話をしていて、「きのう、何軒か、店を回って水を探したけど、福岡もどこにも売ってない。ダンナのおじさんが熊本だけん、電話したら、電気は通つとるばつてん、水が出らん。と聞いて、持つていこうと思つて探すけどなか。ばつてんね、家の近くの人気のなかスーパーにはあるつて、ダンナに回つてもらつたらあった！」と、社長の友達が避難所で車

中泊していたり、昼間は家を片付けに帰るけど、ずつと揺れ続くから、駐車場で寝るとか、熊本の人たちの生の声を聞いて、いても立ってられない。また、社長が一番なんとかしたいと思つているはずと心の中でつぶやき、「きのう、岐阜新聞の若い記者さんが、たらい舟の取材に來られて、観光協会の人に風地蔵のオーナーは熊本出身だと聞いたから、「僕に何か出来ることはないですか？」

「そして熊本の情報が知りたいです。」と駆けつけてくれました。」と、「う〜ん、そーやね。何が出来ますかって、聞いてみて！」即、電話してきのうのお礼と、相談をしました。「僕に出来ることは、それを記事にして、新聞に掲載することだけです。それで皆さんが動いてくださればいいと思つています。行政も含めて。」と言つてくださつたかと思えば、翌日の朝刊の新聞欄の真裏、一番目立つところに大きく記事が載りました。朝一番に社長にFAXしました。その日の朝から、風地蔵には問い合わせが殺到します。私の息子の同級生のお母さんも、すぐに駆けつけて

くださり、私に出来ることはない？お手伝いするわと、言つてくださったとても心強くなりました。社長は、「なんこれ、びっくりした〜！よし、わかった。物資はうちに送つて。熊本は通行不能。佐川だけが、動き出したらしいけど道はパニック。熊本は地元だけん、あたしが運ぶ！でも水とかなら、送料高いやろね。どうする？」朝の記事を見てすぐに奥田さんが、1万円おいていかれたんだという、

「え〜お金はもらったらいかに。物資だけに絞つて！いや、でもね、そのお金は送料に使わせてもらおう！そして、必ず、お金も物資ももらった人の名前と、中身をもれなく全部記入して、あとで発表できるように。」その日のうに、水2L×6本の1ケースが6箱、おむつ、ウェットティッシュ、ストックキング、肌着、生理用品など、集まり、翌日十九日には、計8箱をヤマトさんから社長の自宅に送りしました。「送料、13000円でした。」「わ〜高かったね、奥田さんと、ネットの人がお金持つてきてくれて良かった。まさか8箱で、そ

の便は受け付けてないけど、福岡には、わりかし早く届いた。社長も荷物が届いた翌日には、熊本地震から2日目の熊本へ。城壁が無残に崩れた熊本の敷地内にある、京町の熊本大学教育学部附属小学校、保田窪の西原小学校避難所をまわってくれました。夫の母からも、新聞が載つた朝、何回も電話をくれて、「周りの人たちに声かけとくね。体に気をつけて頑張つてね。体に気をつけて頑張つてね。」など心配もしてくれました。後日母とゆつくり話が出た。社長の家が駄目になったと思ひ込んでいたそうで、事情を説明すると、「そうやってか、よかつたよかつた」と安堵していました。「ママさんも無理しないようにしてらつて、あんたもね、あんたがいたら大変やでね」と気を使つてくださいました。

その後も、たくさんの方の物資を送り続けています。今回の地震で、あらためて人の温かさを感じられて、人に支えられて生きているんだなととても嬉しくなりました。私もご恩返しが出来るようにしたいと思えます。まだまだ未熟ですがこれからもよろしくお願ひします。

まちゼミ①

原 由里子

前回は3月8日のOK B大垣共立銀行本店で「資産運用してみませんか」に参加しました。今回は、3月12日 田中屋せんべい総本家で「今さら聞けない手土産のマナー講座」に参加してきました。

今まで、手土産を持って自宅に伺うという経験が正直ないです。確かにマナーなど知らないです。時間は50分と比較的短い講座です。場所は、駅前通の守屋美術館のところを右に曲がり、ブラツキ通りを通って左側に田中屋せんべい総本家があります。

5分前に到着しました。店内の東側に待合席があり、そこに4人の女性の方が座っていました。どうも講座に参加される方のようにです。店長らしい男性の方が「少し早いですが始

めさせていただきます」と挨拶をされたので、どうやら私を含めた5名のようです。会場は2階です。いすを並べて一番前に座りました。手土産には、品物の選び方と渡し方、いただき方までいろいろマナーがあるようです。まず、手土産は感謝の気持ちです。感謝の気持ちを形にした物で、「先方をお訪ねする」相手の貴重な時間を「頂く」という感謝の気持ちだそう。手土産は、食べものなどの「消えもの」を選び、もらった人の負担にならない、恐縮されない程度品を選ぶことも大切だそうです。自分の好みより、相手の喜ぶ物を選び、面識がある相手なら、あらかじめ聞いておくのも失礼なことではないようです。手土産を渡すタイミングは、応接間や客間に通さず、挨拶を済ませます。渡すのはそのあとになります。ワンルームでも、お部

屋に入って挨拶をしてから渡すのがマナーです。ただ例外もあるようで、冷蔵冷凍庫にすぐ入れてほしいものやお花は玄関先で渡すこともOKだそうです。ただし、「玄関先で失礼します」と一声添えてからです。紙袋に入った手土産が非常に多いと思います。基本的に紙袋に入れたままは駄目です。取り出して中身だけを渡すのがマナーです。紙袋は、持ち歩くときに、贈り物に汚れや埃がつかない様にする道具だそうです。袋から取り出し、一度手土産の正面を自分側に向けて、改めて正面を相手に向けて持ち直して差し出しします。紙袋は持って帰るそうです。

例外もあり、喫茶店などで会って渡す場合は、状況によっては紙袋のままお渡しすることも。紙袋のまま渡すときは片手を底に添えて、もう一方の手で持ち手の端を持ち、相手が受け取りやすい形で渡します。この時も、「袋のまま

で失礼ですが」の一言を忘れないことです。手土産をいつ開けようかです。本来は、相手が会社や家庭で楽しんでもらうものです。手土産をくれた相手の前で開ける必要は無いそうです。招く側としてお菓子を用意しておくのもマナーだそうです。でも頂き物だから、今すぐ見たい、食べたいというの間違いではないです。頂いたお菓子を出す場合は、「お持たせで失礼ですが」とするのがマナーです。ちなみに包装も含めて贈り物であるという感覚が強いので、開け方も大切に開けることです。

手土産を渡すときの言葉も大切です。「お持たせ」(おもたせ)受け取った側が使う、もらった手土産を丁寧にする言葉です。「つまらないものですが」言葉通りの意味ではないです。自分なりに誠意を持って選んだ品ですが、立派なあなたのみ

えてしまします。という謙遜の意味がある言葉として使われているようです。あと、「お口に合うと嬉しいのですが」「喜んでいただけると良いのですが」という言葉もあります。御祝いの時に使用される「熨斗」(のしあわび)という鮑を薄く切ったものを使っていたそうです。長寿を願う縁起物だそうです。なので、弔事や御見舞いにはつけてはいけません。

「水引」とは、神様への御供え物を束ねた紐で、未開封であるという封印の意味もあるそうです。結び方や色によって、様々な用途に分けられるそうです。基本的には5本の結びだそうですが、3本や7本もあります。水引の結び方にも、あわじ

結びという古くからある基本的な結び方。「結び切り」ももとは、あれじ結びを簡単にしたものだそうです。現在では、一度きりで繰り返し返さないものに用います。婚礼に関わるものは、10本の水引を用いて「夫婦結び」と言われます。あと「掛け紙」は、外界から穢れを防ぐ白い紙だそうです。私、掛け紙を見ればわかると思うんですけど、名前を見てもパツと浮かんでこないです。どんな物だったのでしょうか？誰か教えてください。

頂いた資料の中に本当はシチュエーション別のマナーもあるんですが、講師の方がその部分を省きました。あとは質問コーナーになり講座が終わりました。私は、この講座の前に、「普通救命講習II」を4時間受けた後で、疲れて

いたのもあったようです。一番前に座りながら、舟を漕いだり持っていた資料を2〜3回落としたり、隣の方に倒れかかりそうになっていました。講座のあと、アンケートを書きました。講座中の失礼な態度もあり、商品をいくつか購入しました。参加者全員に、大垣せんべいを1枚づついただけました。その場ですぐ食べたかったです。花粉症でマスクの中が大変なことになっていました。め、食べれずあとで美味しく頂きました。

資料を読み直すと、なるほどなと思うんですが、講座はかなり短縮して終わったのが少々残念な気がしました。また、次の休みも「まちゼミ」です。休みのたびに、勉強！勉強！楽しみです。おわり

結びといたのもあったようです。一番前に座りながら、舟を漕いだり持っていた資料を2〜3回落としたり、隣の方に倒れかかりそうになっていました。講座のあと、アンケートを書きました。講座中の失礼な態度もあり、商品

「人を助けるすごい仕事」ダイヤモンド出版 西條剛央 著

熊本震災

朝岐阜新聞を開くと風地蔵さんが「熊本震災」の支援の窓口にと記事が載っていた。偶然にも車で5分くらいの所で仕事だったので、若い衆と抜けて10時にお茶をしに行った。店長と福岡のオーナーとのやり取り、状況の情報などのお話しを伺った。

その間にもひっきりなしにお店の電話が鳴る。恥ずかしながら「支援物資」の準備もできなかったのも、お財布から余分にコーヒー代を支払いさせていただいた。(残念ながらペラペラ、スカスカの財布)

構造構成主義という学問が東日本の震災時のボランティアに大きく役立ったという。

考えないといけないことは「目的」と「状況」のみ。それだけで法則的に方法論が導き出される。今回の目的は災害支援であるので、風地蔵さんでコーヒーを飲んでいる状況で出来ることは？

状況は次々に変わるので、支援の方法もその都度変わる。前回の東日本の震災でボランティア組織を動かした人の書いた本。

庭師 奥田良樹